

池田遙邨さんは、絵を描くことが大好きでした。



(日課の
鴨川散歩中)

遙邨 ものがたり 三五回

スケッチブックを片時も
手放さず、何でも
描きました。

昨日よりも
ええ色しとるワ

そんな遙邨さんは、明治28年
岡山に生まれました。



お父さんが転勤の多い仕事
だったので、



子どもの頃、6回の引越と
3回の転校をしなければ
なりませんでした。

15歳の時、どうしても
画家になりたいたく
て、中学校の
入学試験を放棄



仕方の
ないやつだ

父の友人の紹介で、ついに
洋画家の松原三五郎に入門
できました。



昇一は一人で大阪に出て
絵の修業を始めました。

2年後には、個展を
開くほど
頑張り
ました。



明治45年福山商工会にて

大正2年、2回目の個展を開いたとき、
運命的な出会いをしました。



向かいに日本画家が
来ているそう

はじめまして。
池田昇一です。

あなたの個展
見ました。

自然はよく見えています
これからは主観を入れて
みてはどうでしょうか。

小野竹喬は、
京都で活躍している日本画家でした。



主観か？

見たままを描くのではなく、
自分が感じたものを
絵にするのは面白そうだが
まだむずかしいなあ



昇一は、写生をひたすら続けました。

大正3年、水彩絵の具で描いた
《みなとの曇り日》が文部省の
美術展覧会(文展)に初入選



わずか19歳で
文展に入選する
のは大変なことで、
とても注目されました。



文展作家とは
偉いやつだ。

中隊長官舎で
絵を描きたまえ。

2年の間 厳しい兵役を務めながらも、
絵を描くことができました。

大正7年

よーし
小野先生のように
日本画を描こう。



「遙村(のち遙邨と改名)という雅号を
名乗り、初めて出品した日本画は、
文展に落選してしまいました。

ああ、ちゃんと日本画の
先生について勉強しないと
あかん。小野先生の
ところに行こう！

大正8年 京都へ行き、竹喬の紹介で
日本画家の竹内栖鳳に入門しました。

自分からやるという
心構えが一番大切だ。

はい

展覧会に出品
してみたら？

親切な先輩たち

その年の秋、教えてもらいながら
描いた日本画が
帝展※に入選
しました。



入ってしまった。
先輩に悪いなあ



その頃、遙邨はムンクや
ゴヤという画家の作品に
魅かれ、彼らのような
暗い絵を描きたいと
思いました。



大正12年、関東
大震災が起こつ
た東京へ行き、
400枚もスケッチ
をしました。



栖鳳先生は、そんな遙邨に
言いました。

一輪の花を描いても
立派な芸術はできる。

悲惨なものが芸術やと思って
いるようやが大間違いや。

※文展は、帝国美術院美術展覧会(帝展)と名前が変わりました。

遙郎は京都を出ました。



栖鳳先生にほくの芸術が分かるもんか!

岡山、倉敷を放浪しました。作品は、再び落選しました。

住むところがない。お金もない。子どもも生まれる。

考えた末京都に戻りました。

神社やお寺で古い作品の模写※にはげみました。

特選の絵でも描いてやる!



※芸術作品などをそっくりそのまま写し取ること。

大正15年、画風をがらりと変えた《南禅寺》は、帝展で再び入選を果たしました。



幅2.5メートルの大作《南禅寺》

池田君、いい絵やった。もう少して特選やった。へえ、そうですか

洋画を描いていた頃、熱心だったように、日本画に転向してからもますます写生の旅が盛んになりました。遙郎は、日本中を旅しました。



旅は枕灯消したあとの波音

遙郎は、「旅は画室の延長だ」と考え、家にこもって絵を描くだけでなく、あらゆる場所を歩きながら描きました。



歌川広重にここが来て、東海道は3度も旅しました。



ようせん 旅行装 ハッピースタイル



泊められないね 困ったな

一稼ぎせんか?

こいつから早く逃げたい!

この自然の何とも言えない感じは、旅ならではのものだなあ 旅っていいなあ!

美しいなあ

あっ 山百合が...

はっぴ 写生帖

手ぬぐい

ももひき

じかたび

遙郵の絵の世界は、
とめどなく広がりました。

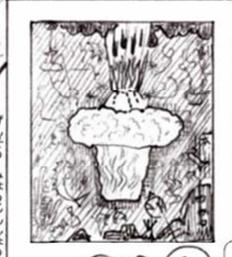
富田溪仙に
影響を
受けた頃。



溪仙先生が描く絵は
すばらしい。

富田溪仙
《御室の桜》
昭和8年

ニュースを知って
ひらめいた絵。



「海底火山
噴火」

《幻想の明神礁》
昭和27年

童話のような
メルヘンチックな絵。



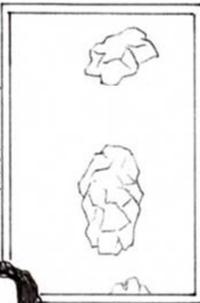
《森の唄》
昭和29年

小野竹喬《奥の細道句抄絵》
10点のシリーズ 昭和52年



《石》
昭和32年

ほくも、いつかこんな
絵を描きたいなあ



ひとつの対象を
徹底的に見つめて
描いた落ち着いた絵。

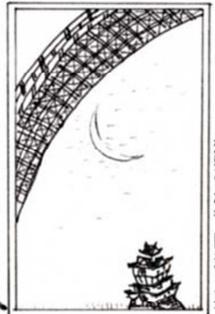
1000枚も石を写生しました。

こんな構図は
どうだ…



小下絵の山

遙郵独自の
視点でとらえた絵。



《錦帯橋》
昭和55年



昭和28年 画塾「青塔社」をつくり、
弟子も育てました。

「われら未完の青二才」で
青塔社という名前になったのです。

昭和63年に92歳で亡くなる直前まで、絵を描き続け、
28点もの山頭火シリーズを生み出しました。



ほくと同じように旅に生きた
大好きな詩人、種田山頭火の
句を絵に描こう…

昭和59年
89歳

120歳まで
生きるぞ

文化勲章
若々しく生きる秘けつは、仕事、
恋愛、個性的な服装、好きなこと
を一所懸命やることだよ…

あれ、
おもしろいな
これもおもしろいなあ
入院中でも
写生ばっかり。



え・とまか